

上級教材に見られるオノマトペ

——統語的特徴の分析と指導の観点——

三上 京子

キーワード

上級教材・オノマトペ・統語的考察・後続句・指導の観点

1. はじめに

日本語は擬音語・擬態語などのいわゆるオノマトペが多い言語として知られているが、日本語教育の初級および中級前半ではオノマトペが積極的に指導の対象となっているとは言えない。ところが中級後期から上級になると、教科書・教材の出典のほとんどが小説やエッセイなどの生教材であり、また教科書以外にも多くのオーセンティックな教材に触れることから、学習者は突然多くのオノマトペに出会い困惑することが多いのも事実である。

ところでこれまでのオノマトペに関する先行研究においては、様々なオノマトペの意味的、形態的、音韻的、統語的考察はなされてはいたものの、学習者が実際に出会うオノマトペについてデータを収集し、それらに考察を加えたものはなかったように思う。そこで本稿では、学習者が上級になって実際どのようなオノマトペに出会うのかということ、上級の教材に出現するオノマトペを調査することによってまとめる。次にそれらを後続句との関係から統語的に考察・分類することを試みる。その上で、それらの結果を上級におけるオノマトペ指導という観点からまとめてみようと思う。

2. 日本語教育におけるオノマトペ

2.1 オノマトペの定義と範疇

オノマトペは様々な定義されているが、共通している考え方として「オノマトペと考えられている語彙の形態と意味の関係が恣意的ではなく、何らかの形で相関している」(田守・ローレンス (1999) p. 5) ということがある。すなわちオノマトペの原義は何らかの音を真似ている語、あるいは何らかの音を連想させる音象徴語ということになるが、本稿ではオノマトペを音象徴に限らず、事物の様態や心身の状態を描写する語、いわゆる擬態語と呼ばれる語も含めて用いることとする。

では、どのような語をオノマトペと認定するのかという範疇化の問題であるが、実はこの問題は母語話者であっても各人の語感によってオノマトペと認識している範囲がかなり

異なるという調査結果もあり簡単ではない(注1)。オノマトペの範疇化については次の3つの観点から論じることができる。まず、オノマトペの音韻・形態が他の語と異なっているかという問題。第2に、オノマトペが統語的に一般語彙と区別され得るかという問題。3点目にオノマトペの意味的独自性の問題である。さらに、オノマトペが特定の談話において他の一般語彙と異なる使用状況を見せるのかという問題もある。

田守・ローレンス(1999)では、伝統的なオノマトペ語彙の独自性に関して12の要因をあげている。そのうち音韻の特徴としては5、形態に関するものが6、統語論としては1つの要因があげられている。基本的にオノマトペはその形態から他の語彙と区別され得るという考え方をとるとき、以下の6つの要素が特に重要であると考ええる。

- (a) 2モーラ反復形の様態副詞的なオノマトペの多くがQ(筆者注: 促音)の語末付加を受けるが、この種の接辞付加あるいは拡張は反復形の一般語彙や漢語にはけっして見られない。
- (b) 2モーラ反復形の結果副詞的なオノマトペは語中にQが挿入されるが、この種の接辞挿入あるいは拡張は反復形の一般語彙や漢語にはけっして見られない。「促音」の語末付加はオノマトペに限られる。
- (c) 「り」の語末付加はオノマトペに限られる。
- (d) Qの語末付加はオノマトペに限られる。
- (e) N(筆者注: 撥音)の語末付加はオノマトペに限られる。
- (f) 反復形のオノマトペは語幹をさらに反復してその形態を拡張することができるが、このようなことは本来語や漢語にはけっして起こらない。

本稿では抽出する語がオノマトペであるかどうかは、飛田・浅田(2002)『現代擬音語擬態語用法辞典』に見出し語及びその同族語・関連語として採用されている約2200語を基準とし、その他の辞典やオノマトペ教材などを参考に判断した。

2. 2 オノマトペ指導における統語的考察の重要性

日本語教育においてオノマトペを指導項目に取り入れようとする場合まず取り組まなければならないことは、教師が指導する際に必要となるオノマトペの用法に関する分類・分析、すなわちオノマトペの統語的考察である。従来の国語辞典や用例辞典は基本的に日本語母語話者のためのものであり、その説明や用例はもともと母語として知っている内容を確認するためだけのものであった。当然のことながらそれらの記述は外国人学習者にはとうていその用に供さないものであったし、また教師にとってもそれらを指導のために直接用いるには不適切であったことになる。また日本語教育の分野で外国人向けに作成された辞典や参考書も、意味の説明や典型的な用例は示されているものの、例文の語彙が中・上級の学習者にとっても難しかったり、十分な文脈が与えられていないため、実際どのようなときにどう用いるのかがわかりにくいというものもある。さらに一つのオノマトペが複数の意味や用法を持つとき、それらが意味のシソーラス的分类から別々のところに記述されていて、それぞれのオノマトペの用法を包括的に見渡すことができないという問題も見られた。

しかし学習者がオノマトペを理解語彙としてだけでなく使用語彙とするためには、それぞれのオノマトペの意味を理解させるだけでは不十分で、それらが文中でどんな形でどの

語とともに用いられるかという統語的観点からの考察と記述が必要となるはずである。なぜなら学習者はオノマトペの語そのものの意味やニュアンスをどんなに詳しく説明されても、それを文中でどう用いたらいのか知らされなかったら、結局使えるようにはならないからである。例えば、「はっきり」というオノマトペは「はっきり話す」「はっきり見える」「はっきりする」というように一般動詞や「する」に続く形はとれても、「はっきりになる」「はっきりだ」「はっきり者」のように「なる」や「だ」「名詞」に接続する形は通常認められない。一方「ぴったり」というオノマトペの場合は、「ぴったり合う」「ぴったりする」のほか、「ぴったりだ」「ぴったりサイズ」のような接続も可能である。一つひとつのオノマトペについて学習者向けにその用法をわかりやすく提示するためには、まず様々なオノマトペが統語的にどのような振る舞いを見せるのかを探らなければならない。次節でその点について考察する。

2.3 オノマトペの統語的考察

オノマトペの統語的考察については田守・ローレンス(1999)が「日本語オノマトペは、統語的に副詞、動詞、名詞、形容詞／形容動詞として働くことができる」と、品詞別の働きに注目した分析を行っている。このうち最も使用頻度が多いと思われる副詞としての用法はさらに「様態副詞」「結果副詞」「程度副詞」「頻度副詞」の別に考察がなされている。また動詞用法は「一する」動詞、「一つく」動詞、その他の派生動詞に分類し、名詞用法には単独の名詞と複合名詞の働きがあるとしている。次に「と」「に」との共起について、それらを「随意的に伴う」「通常伴わない」「伴ったほうが好ましい」「義務的に伴う」という観点から考察している。これらも文中での振る舞いを記述する際重要な点であると言える。

星野(1991)は、水谷静夫が著した試案文法の構文解析に当てはめ、擬態語を「情況語」として捕らえ「ト・ニ・α」によって「情況化」が施されるとしている。そして【表1】にあるように後接成分を横軸としたマトリクスとしてオノマトペの用法を分類し、4つの資料から採集した擬態語の用例を配置している。

【表1】 abab型擬態語の用法——接続——（紙面の都合上、表の一部を転載）

擬態語	ε 情況化					と情況化←情況語・体連語 →連体化					格要素		陳述	
	数	～ する	～V	～A	～N	～と V	～と A	～と する なる	～に V	～の	～が	～を	ε	～だ
いらいら	2	1				*		*					1	
うとうと	1	*	+			+		1						
おずおず	2	1	+			1								
もじもじ	2	1	1			+							*	
ざわざわ	3	1	2			*							*	

注1：数字は資料中に現れた語の使用頻度。*は国研『現代雑誌九十種の用語用字五十音順語彙表・採集カード』マイクロフィッシュに見出された用法、+印は『擬音語・擬態語辞典』例文の用法である。

星野はこの分類を4種の資料を合わせて複数回使用されている擬態語を分析の対象としているが、結果的にそれらはいわゆる繰り返す語形のみになっている。さらに対象とした語のうち構文上の用法が2種以上に及ぶ14語について分析していて、「わずか14語ではあるが擬態語が接続するほぼすべての構文要素をカバーする」としている。しかし、ここで取り上げられていない擬音語や擬声語、また繰り返しの語形をとらない擬態語、資料に一度しか出現しなかったその他のオノマトペの用法についてもこの表ですべてカバーしうるのはさらに考察の余地があると思われる。

一方、加藤・坂口(1996)は、星野(1991)の分類が助詞の問題や品詞性・呼応の問題を同一軸上に並べて論じていることに疑問があるとし、オノマトペの後接成分についての【表2】のような階層性のある分類を試みている。

【表2】加藤・坂口(1996)「後接成分とオノマトペの性質について」より

タイプ		オノマトペ			後接成分									
					φ			ト			ニ			
					ダ	スル	用	ダ	スル	用	ダ	スル	用	
A系	併用型		ツルツル	クシャクシャ	ヌメヌメ	○	○	○	—	○	○	—	○	○
	形式動詞型		サラサラ	ゴロゴロ		○	○	×	—	○	×	—	○	×
	一般動詞型		ビリビリ	ビッショリ		○	×	○	—	×	○	—	×	○
	例外	程度副詞	タツプリ			○	○	○	—	○	○	—	×	×
	結果副詞	カチカチ	キチキチ	カラカラ	○	×	×	—	×	×	—	○	○	
B系	併用型		アッサリ	イソイソ	ウネウネ	×	○	○	—	○	○	—	×	×
	形式動詞型	擬情語	アタフタ	クラクラ	ムッ	×	○	×	—	○	×	—	×	×
	一般動詞	擬音語	カサカサ	ガラリ	ダラリ	×	×	○	—	×	○	—	×	×
	例外	副詞	ウッカリ			×	○	○	—	×	×	—	×	×

このように、それぞれのオノマトペの後接成分を助詞とそれに続く要素の組み合わせによって階層的に分類するという視点は非常に重要であると思う。ただ、加藤・坂口も「まとめ」の項で述べているように、そもそも助詞「ト」と「ニ」は「ダ」と共起しないので、「φ格」「ト格」「ニ格」と「ダ」「スル」「用」の後接成分との組み合わせですべてのオノマトペの用法がすっきりと整理できるかどうかは疑問が残る。またこの分類に先立って、一般動詞は「スル」や「ナル」を除いたものという記述があるにも関わらず、形式動詞である「スル」と同様にオノマトペと共起して独特の用法を持つ「ナル」についてはこの表で特に項目化されていない。さらに例えば「ダラリ」というオノマトペが「変化の過程を持たず、結果の状態を表すことのできないオノマトペ」としてB系に分類されているが、「上げていた手が疲れてだんだんダラリと下がってきた」のような文においては変化の結果が示唆されているとも言えるのではないだろうか。そう考えるとA、Bの二系列に分類しきることの難しさを感じるというより、このようなそれぞれのオノマトペが「変化の結果」の意味を内包しているかどうかという議論が、統語的分類にとってどれほど意味があるのかいささか疑問である。

つまり助詞の後接が随意的であるかどうかということも含めて、それぞれのオノマトペが複数の用法を持ち様々な文中での振る舞いを見せるとき、それらすべてを忠実に分類・

記述していこうとすると非常に複雑で分類項目も膨大になってしまう可能性がある。そこで個々のオノマトベについて可能性のある用法すべてを網羅的に記述・分類することは次稿に譲ることとし、本稿ではオノマトベの用法を、後接する成分とその機能という観点から以下のように7つに分類した。そして上級教材において各オノマトベが実際どのような後接成分と機能を伴って出現したのかということに注目して記述と分析を行うこととする。

＜日本語オノマトベの用法分類＞

- ①～（と）V：一般の動詞に接続し様態副詞または結果・頻度・程度副詞として機能する
- ②～（と）する：「する」に接続し動詞として機能する
- ③～と／にV・なる：一般の動詞または「なる」に接続し結果副詞として機能する
- ④～とした／している：「した／している」に接続し形容詞として機能する
- ⑤～（と）A：形容詞・形容動詞に接続し様態副詞として機能する
- ⑥～（の）N：名詞に接続し形容動詞として機能する
- ⑦N／～だ・です／他：名詞に接続し形容動詞として機能するもの、単独または複合名詞として機能するもの、また「だ・です」等を伴い述語となるもの、文外独立用法等

3. 上級教材に現れるオノマトベ

3. 1 資料とする上級教材

資料は市販の教科書・教材4点、小説・エッセイ集各1点を取り上げる。教科書・教材は留学生向けの教科書のほか、一般学習者向け読解教材など様々なタイプのものの中からできるだけ出版年度が新しいものを選定した。小説・エッセイ集は学習者が上級になって初めて取り組むものであるから語彙や文型がなるべく平易で日常的な場面を扱っているものを対象とした。取り上げた小説・エッセイ集はいずれも日本語学校の上級クラスで筆者が実際に教材として取り上げ授業を行っていたものである。資料は以下の6点である。

- (1) 『日本語中級J501—中級から上級へ』土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・石沢弘子（1999）スリーエーネットワーク（注2）
- (2) 『上級日本語』東京外国語大学留学生日本語教育センター（1998）凡人社
- (3) 『日本語上級読解』柿倉侑子・鈴木理子・三上京子・山形美保子（2000）アルク
- (4) 『日本への招待』東京大学AIKOM日本語プログラム（2001）東京大学出版会
- (5) 「はじめての駅」「窓ぎわのトットちゃん」「新しい学校」「気に入ったわ」「校長先生」
『窓ぎわのトットちゃん』黒柳徹子（1984）講談社文庫より
- (6) 「似たもの親子」外山滋比古、「忘れる」高樹のぶ子、「隣人はドイツ版石川五右衛門」八木あき子、「南無お父さんお母さん」古橋廣之進、「棚の上」佐藤愛子、「ネパールのビール」吉田直哉、『ネパールのビール』日本エッセイスト・クラブ編／91年版ベスト・エッセイ集（1994）文春文庫より

3. 2 出現したオノマトベ一覧

それぞれの教材に出現したオノマトベとその総数は以下の通り。各語は教材ごとに50

音順で後ろの数字は複数回出現したときの回数を表す。用例は【資料】を参照のこと。

教材 (1) 41 語

イソイソ、イライラ、ウーン、きちんと (2)、きっちり、きびきび、キョトン、クラッ、くるくる、グルグル、コチコチ、さめざめ、スーッ、スーハー、ちょこまか、ドキンドキン (2)、ニヤニヤ、はっきり (3)、バタリ、ハーッ、ピーピー、ピピーッ、ペラペラ、びっくり、ふと、ポーッ (5)、ポイ、ほんやり、ゆっくり、ゆったり、ゆらゆら、ワクワク

教材 (2) 41 語

あつあつ、いそいそ、いらいら (2)、オギヤア、オロオロ、きちんと、キラキラ、くつきり、くよくよ、しっかり、じっと (2)、すーっ、すっかり、そろそろ、ちゃんと (8)、ドキドキ、どんどん、ニヤリ、はっきり (2)、ひっそり、ひんやり、ふっと、ふらり、ボロボロ、むしゃむしゃ、めつきり、ゆっくり (2)、ゆらゆら、わくわく

教材 (3) 65 語

うっかり、うとうと、うろろろ、オズオズ、おろおろ、カアカア、がっくり、カチン (3)、ガツン、ガブリ (2)、ガラガラッ、きちんと (2)、ぎっしり、ギョッ、くつきり、けろっ (2)、ゴタゴタ、こちこち、こっそり、しっかり、ジーッ、すっかり (2)、すつきり、せかせか、せっせ、ソクソク、そっと、たっぶり (2)、ちゃんと (2)、ちよんと、ドキドキ、ニヤリ、パカッ、はっきり (3)、ハッと (2)、パッパッパッ、パンパン、びっくり (2)、ピツたり、ひっそり、びゅうびゅう、ブスッ、ぶつぶつ、ふと (2)、ほーっ、ホッ (2)、ほどほど、ほんやり (2)、ゆったり、わくわく

教材 (4) 46 語

あくせく、きちんと (3)、キュッ、ギューッ、くしゃくしゃ、くすくす、くすっと、ぐったり、くよくよ、グングン、コトコト、しげしげ、じっと、じわっ、シーン、すごすご、ズルズル、せっせ、そこそこ (2)、たっぶり (2)、ダブダブ (2)、ダボダボ (2)、のびのび、のんびり、はっきり (2)、ばらばら、ばりばり、ひっそり、ふと、ぶらぶら、ポケーッ (4)、ほっ、ほーっ、ムカムカ、ゆっくり、ゆったり、

教材 (5) 26 語

がちり、ギザギザ (3)、キチン、ぎちり、キラキラ、ゴシゴシ、じーっ、ジャキジャキ、ズルズル、チョコチョコキ、たっぶり、チラリ、ツルツル、パタパタ、パタン、パチパチ (2)、ビクビク (2)、ビリビリ (3)、ヨレヨレ、わーい

教材 (6) 23 語

うっかり、がっかり、こっそり、さっぱり (2)、さらさら、スイスイ、すっかり、ずらり、そっくり、たっぶり、チクリ、ちゃんと、どんどん、ニヤリ (2)、バラバラ、ぶらぶら、ぽっくり、ホッ、ムカッ、モゴモゴ、ヨレヨレ

3. 3 出現したオノマトペの統語的特徴の考察

各教材ごとに出現したオノマトペを、2. 3で示した用法一覧によって分類すると【表3】の通りになる。(同一のオノマトペが同一または異なる用法で出現している場合も、すべて延べ数で表示している。出現割合はオノマトペ出現総数に対するものである。)

【表3】「上級教材に出現したオノマトベの用法による分類」

資料	～(と)V	～(と) する	～と／に V・なる	～とした・ している	～(と)A	～(の)N	～だ・ 名詞・他	合計
中級 J 501	25	12	—	2	1	—	1	41
上級日本語	27	6	1	4	2	1	—	41
上級読解	42	14	2	5	—	1	1	65
日本への招待	25	5	2	4	—	6	4	46
トットちゃん	10	3	1	1	1	3	7	26
ネパール	12	4	2	1	—	1	3	23
合計	141	44	8	17	4	12	16	242
出現割合(%)	58.3	18.2	3.3	7.0	1.6	5.0	6.6	100

この表から分かることは、出現したオノマトベの用法全体の58%が助詞「と」を伴うかまたそのまま動詞に後接して様態副詞として機能しているということである。(注3) また形式動詞「する」を伴い動詞として機能する例も18%あり、この2つの用法で全体の8割近くを占める。一方、一般動詞や「なる」が後接した結果副詞としての用例はわずか3%程度しか見られない。また「～とした・している」の形でオノマトベが形容動詞的に用いられる例が7%あった。形容詞や名詞に続く用法や「だ・です」等を伴って文末に来る用法、オノマトベそのものが名詞として振る舞う用法はそれぞれ6%強程度見られるということがわかった。これまで、それぞれのオノマトベが複数の用法を持つためにその用法の全体像を記述することは非常に複雑になると考えてきたが、こうしてみるとオノマトベは実際には様態副詞として、また「する」を伴って動詞として用いられる用法がその大半を占めると言えるようである。このことは「ほとんどすべての日本語オノマトベは、その音韻形態に関係なく、様態副詞として機能することができる。唯一の例外は、「びっくりする」や「がっかりする」といった、常に生産的な「一する」という動詞に組み込まれて用いられる一群のオノマトベである」(田守・ローレンス(1999) p.47)と述べられていることと符合すると思われる。

3. 4 オノマトベの必須度についての考察

これまで日本語教育においてオノマトベがあまり注目されていなかった理由の一つとして、そもそもオノマトベは付随的要素でありオノマトベがなくとも文の大意をつかむのに支障はない、従って必須要素でないオノマトベを積極的に指導する必然性はないというような認識が現職教師の間にもあったと思われる。オノマトベがその出現した文にとってどの程度必須であるかということは、オノマトベをその文から抜いてみて文意が変わりなく伝えられるかどうかを見ることである程度推測がつくと考え、今回その方法を用いて考察してみることにした。その結果、オノマトベの必須度はおおよそ以下の3つの段階に分けられることがわかった。

<段階1>オノマトベがなくとも文の大意はほぼ誤りなく伝わると思われるもの

例1: 【教材1】10. 小さいものはくるくと素早く回転している

例2: 【教材2】10. なにかとくよくよ思い煩うことの多い人

例3: 【教材4】15. 子どもたちは、みなヘリーさんをじっと見つめていた

<段階2>オノマトベがなくても文の大意は伝わる。ただしその場の状況や筆者または話し手の心情が正確に伝わるとは言えないもの

例4：【教材1】13. 片思いを嘆いてふろ場でさめざめと泣いたりした

例5：【教材3】41. 筆立てが自然にパカッと割れたのか

例6：【教材4】39. ベンチにすわって、ボケーッと海を見ている老人

<段階3>オノマトベが文の必須要素であり、ないとその文の意味をなさなくなるもの

例7：【教材1】41. ドラマを見ているようでワクワクします

例8：【教材2】31. 戸にはカギがしまり、ひっそりとしていました

例9：【教材5】22. 外から帰って来たとき、どの洋服もビリビリで

例10：【教材6】13. 当時はちゃんとした状態で残っているプールなんかなく、

まず<段階1>ではオノマトベが様態副詞として機能していて、基本的にそのオノマトベがなくとも文の大意(ここでは動詞が伝える意味)がほぼ誤りなく伝わるのがわかる。ただ<段階2>になると、様態副詞と言えどもそれなくしては筆者または話し手の意図したところが正確に伝わるとは言えないと思われる。例えば「さめざめと泣く」では「さめざめ」がないとこの場面での話者の心情が正確に描写されない。また「パカッ」というオノマトベがなければ筆立ての割れ方がリアルに再現され得ないと思われる。さて<段階3>の例では、オノマトベなくしては文そのものが成り立たないということがわかる。日本語には「する」を伴い「動詞」として機能するオノマトベがとても多く、それらは「ドキドキ」「いらいら」等のいわゆる「擬情語」に豊富にあることが知られている。しかしオノマトベが必須となるのは「動詞」として機能する場合だけではない。上の例8「ひっそりとしていた」、例10「ちゃんとした」はオノマトベが形容詞として機能している例だが、これらもオノマトベなくしてはほかの表現では言い換えられないことがわかる。また例9「にビリビリだ」のほかにも「そっくりだ」「バラバラだ」「ピッタリだ」などの形容動詞的なオノマトベも日常とてもよく使われているものである。このようなオノマトベの用法はこれまで指導の際にもあまり注目されていなかったのではないだろうか。

3. 5 上級におけるオノマトベ指導について

以上の考察の結果をオノマトベ指導という観点から捉え直してみたい。まず学習者には3. 3で検討したようにオノマトベの統語的特徴として次のようなことが言えると思う。日本語のオノマトベの用法は様々であるが様態副詞として動詞に先行して用いられる用例が全体の6割程度を占めること、その際助詞「と」の付随はオノマトベの音韻形態によって決まるということ。用例として次に多いのは「する」を伴って動詞として用いられるオノマトベであり全体の2割近くになること。また助詞「に」か「と」を伴って結果副詞として用いられるオノマトベもあるが、その用例は比較的少ないこと等である。

次に学習者には、3. 4で示したようオノマトベが日常的な事象や話し手の感情・感覚表現を描写する際に必須となる場合があることを伝え、それらのオノマトベを用例と共に具体的に提示することが必要であろう。例えば、「する」を伴って動詞となる「いらいら」「のんびり」「ぼんやり」等のオノマトベは日常生活において頻繁に用いられていると思われるが、初級・中級段階できちんと導入されていない可能性もあるので、上級段階である

程度まとめて整理して提示するべきである。また「きちんとした仕事」「しっかりしている子供」のように、「～とした／している」の形で形容詞的に用いられるオノマトペも、これ以外に表現方法がなく文中において必須要素であると言える。オノマトペにはこのような用法があること、またこれらのオノマトペによって様々な事象をより正確に描写できるということを示すのも指導の際の重要な観点となるはずである。

さらに、上級においてはオノマトペが様々な文要素として用いることができること、それによってより豊かな日本語表現が可能になることを示したい。例えば「ころころ」というオノマトペは「ころころ転がる」「ころころに太る」「ころころの栗の実」「ころころとした子犬」「ころころだ」(平板アクセント)「ころころ飴」のように様々な用法を持つ。このように複数の用法を持つオノマトペを学習したときは、他の用法と例文も共に示すことによって学習者の表現力をさらに豊かにさせることができるのではないかと思われる。

4. おわりに

以上、日本語上級教材に見られるオノマトペをその統語的振る舞いから考察し、さらに指導という観点から眺めてみた。今回6点の教材に出現したオノマトペを見ていて、日本語の表現においてオノマトペがいかに重要な役割を果たしているかを改めて認識させられた。特に話者の心情や意図するところを正確に伝えること、またその場面や事物の様相を具体的に描写するためにはオノマトペが欠かせない言語形式であることは間違いない。今後も様々な日本語教材や実生活におけるオノマトペの出現例とその用法を観察・分析し、その結果を日本語教育の現場に応用していきたいと思う。

【注】

- 1：三上（2002）では、現職の日本語教師9名と中・上級の学習者14名を対象にオノマトペを含む副詞15語の中でどの語をオノマトペと認識するかというアンケート調査を行った。
- 2：この教材は「J501」という題が示す通り500時間相当の学習を終えた学習者向けとされているが、出典がすべて新聞記事や一般書であり内容の難度も高いことから中級よりむしろ上級者向け教材として考えた。
- 3：助詞「と」の付随については、繰り返し語と「り」を語末に持つオノマトペにおいて「と」の付随が任意であることが多く、反対に「っ」「ん」を語末に持つオノマトペは「と」の付随が義務的である。オノマトペと助詞の共起については田守・ローレンス（1999）に詳しい。

【参考文献】

- 浅野鶴子編・金田一春彦解説（1978）『擬音語・擬態語辞典』角川書店
 阿刀田稔子・星野和子（1993）『擬音語・擬態語使い方辞典』創拓社
 笈寿雄（2001）「“変身”するオノマトペ」『月刊言語』Vol.30, No.9
 加藤久雄・坂口昌子（1996）「後接成分とオノマトペの性質について」奈良教育大学紀要第45巻第1号
 田守育啓（1993）「日本語オノマトペの統語範疇」『オノマトピア：擬音・擬態語の楽園』勁草書房
 ——・ローレンス・スコウラップ（1999）『オノマトペ——形態と意味』くろしお出版

- 野間秀樹 (2001) 「オノマトベと音象徴」『月刊言語 30—9』大修館書店
- 飛田良文・浅田秀子 (2002) 『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版
- 日向茂男監修 (1991) 『擬音語・擬態語の読本』小学館
- 星野和子 (1991) 「擬態語の用法—構文論の観点から—」『講座日本語教育 26』早稲田大学
- 三上京子 (2002) 「日本語教育におけるオノマトベ指導の現状と方策」『第7回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム報告・発表論文集』
- Shoko Hamano (1998) *The Sound-Symbolic System of Japanese*. Kuroshio
- Takehi, H., I.Tamori, and L.Schourup (eds.) (1996) *Dictionary of Iconic Expressions in Japanese*. Mouton de Gruyter.

34. 授業中でも登下校中でも電車の中でも、すぐにボーッとしてしまう
35. 理想の男を勝手に作り上げてはボーッとする
36. 体重なら、はかりにボイと載せればすぐ測れる
37. いつかこんな小さな自分だけの“宇宙”が持てたらいいな、といつもぼんやり考えていた
38. ゾウはゆっくりと足を運んでいく
39. 大きな人の動作は、ゆったりと悠揚迫らぬものがある
40. 水の網の目は形を変えずにゆらゆら動いています
41. ドラマを見ているようでワクワクします

(2) 『上級日本語』

1. 燃え上がる恋の炎、あつあつの仲
2. また実際にバスが着いての、いそいそとした子供たちと家族の再会の様子
3. 返事が来ないといらいらする
4. しかし音楽がこんなにとぎれとぎれでは、聞いていてもいらいらするばかりだ
5. オギヤと生まれて大きくなって
6. 寒サノ夏ハオロオロ歩キ
7. 箱の中のビー玉を一定の形にきちんと並べた後に
8. キラキラ暗い光りのなかで光る東洋風の壁掛の織物
9. あきらかになお若さの印象がくっきりとあった自分のことだから
10. なにかとよくよ思い煩うことの多い人
11. それでもよっぽどしっかり窓を締め切って
12. ついにお父さんは僕のほうへ来て、半透明になりながら、じっと僕の手を握り
13. お父さんはきげんのよい時の癖で、じっと僕を見ながら
14. 一度口に出して読んでみると、すーっと覚えられてしまう愛誦性
15. すっかり大人になってしまうと
16. 今、物質は先進国において、そろそろ過剰になり始めている
17. 住むところはちゃんとある
18. コピーもちゃんと送って来る
19. FAX 番号はちゃんと覚えていてくれた
20. 作家は本をタダで出版社からもらえらると思ってる人もいるが、僕はちゃんと買っている
21. 差出人はちゃんと彼の名になっている
22. 何しろ彼の好みや何かまでちゃんと知っている
23. 作りつけの家具がちゃんと整っている
24. ちゃんと読んでから、感想を添えて手紙をくれる人
25. 贈り物を贈る際、誰と誰に贈ろうかと考えて、店を見て回る時のドキドキした気持ち
26. 作家としてどんどん書くつもりである
27. 彼はいつもの席に座っていたが、僕を見るとニヤリとして聞いた
28. これほどの差がはっきり出たのである

29. まだはっきりとした目的を持っていません
30. それらの人たちの個性的な思い出は、そのお子さんの印象とかさなってはっきり残っている
31. 戸にはカギがしまり、ひっそりとしていました
32. ひんやりしたゼリーのような印象だ
33. 捕まって身動きもできなかった迷いから、ふっと抜け出したりする
34. スイッチを切り、おれはふらりと部屋を出た
35. ほとんどボロボロになっている壁掛の端
36. おれはそのレコードをむしゃむしゃ食べてしまい
37. 学校から帰る父の姿には、前よりもめっきり疲れが見えた
38. 生きるとは、ゆっくり生まれることだ
39. ゆっくり音楽を楽しむことはできなかった
40. ゆらゆら揺れる藻の陰に憩いながら
41. 贈り物を贈る時、相手がそれを喜んでくれるかどうか考えて、わくわくする気持ち

(3) 『日本語上級読解』

1. 仮眠は午後のうっかりミスを防止する
2. 目を閉じてうとうととしている
3. どうしたらよいかわからずに、周辺でうろうろしている
4. もう一度オズオズと言った
5. 親はおろおろしているのに、
6. たくさんのカラスがカアカアとがなりたてる
7. がっくりきて、ストレスが溜まる
8. 「ないものを聞くな」といわんばかりの態度を取られてカチンときた
9. 店員に商品の知識がないとカチンときますね
10. ブスツとした顔でいられるとカチンとくる
11. 「ガツン」という前に
12. ガブリかみつく食べ方
13. ガブリとやらなくてはいけない
14. ガラッガラッと列車の戸が開く
15. 商品のことをきちんと覚えて
16. 勇気をもってきちんとしたリスク・コミュニケーションを行えば
17. 肉や野菜がぎっしり詰まったもの
18. ふと枕もとを見て、ギョツとした
19. 稜線がくっきりと浮かび出て
20. いきり立ってみても、けろっと明かりはついている
21. ほんの1時間後にはケロツとして
22. ゴタゴタと置かれたランプや書きもの机
23. 緊張して、上がって、こちこちになっていた
24. 父親がこっそり使い込んでしまった

25. 私の体をしっかりと包んで
26. ジーッと見ているうちに
27. すっかり機嫌を直して
28. すっかり生活のリズムが狂ってしまう
29. 昼食後に仮眠すれば、頭がすっきりした状態で
30. 「頑張る」は、どこかせかせかした感じだ
31. せっせと鼻の掃除をする人
32. 日本の男の繊細さ、気弱さがソクソクと迫ってくる
33. そっと横目で見ながら
34. たっぷりとすり込み
35. たっぷり持っていったほうがよろしい
36. ちゃんと言ってみろ
37. 主人が触ればちゃんと機能するのだから
38. 主人がちょっとつついたら消えた
39. 私はドキドキしながら、それが起こるのを待っていた
40. その店の老人が、突然ニヤリと笑った
41. 筆立てが自然にパカッと割れたのか
42. はっきり言わないで、ごまかす
43. どうすればいいのか、はっきりしない
44. どうだ、違うだろ、ハッキリしろ
45. ハッと現実の世界へ戻されてしまった
46. 揺さぶられてハッと目を覚ます
47. パッパッパッと画面を変えていく
48. ぱんぱんと拍手を打ち
49. 私はびっくりして起き上がった
50. 私はびっくりして飛び上がりそうになった
51. 明日も知れない今の私にはピッタリかもしれない
52. ひっそりと小さな社が立つ
53. 北風がびゅうびゅう吹いているよりも
54. 店員が不親切だったり、ブスツとした顔でいられると
55. ぶつぶつと何ごとか唱えながら
56. ふと気がついた
57. ふと木の香が流れる
58. ぼーっと見てしまう
59. ホッと息をついた
60. 内心ホッとした様子で
61. 若い子を相手にするのも、ほどほどにしておけ
62. 「何をぼんやりしてるの？」
63. ぼんやりして、光り輝く画面を眺めて
64. ゆったりとしている時間

65. わくわくして見始めたら

(4) 『日本への招待』

1. 小さいころからあくせく勉強はしなかった
2. 大人は私たちの言い分をきちんと聞いてほしい
3. そんな服装に目もくれずきちんと着こなしている人
4. これからの日本社会のあり方をきちんと見すえた、十分な審議
5. ゆるんだネクタイをキュッと締めた
6. (イラスト) 女なんだから！ギューッ
7. セサルさんは顔をくしゃくしゃにして小さな手を順番に握りしめた
8. くすくす笑われたりするのに慣れました
9. 客席の大人からくすつと笑いがもれた
10. ぐったりとして会社にたどりつき
11. あまりくよくよしすぎても良い結果は生まれない
12. エスカレーターは相変わらずグングンと上へ登る
13. 早番のオフィス・ガールが歩道にコトコトと足音を響かせて急ぐ
14. ようやく日本の人たちから、しげしげと見つめられたり
15. 子どもたちは、みなヘリーさんをじっと見つめていた
16. 少年たちの思いがけない優しさに触れたせいか、じわっと涙ぐんでいる自分
17. それが3学期に入ったとたん、シーンとなった。
18. 何のことだかわけがわからず「WHY (なぜ)」とittedだけで、すごすごと退散した
19. 男はほぼ全員がズルズルズボン
20. テレビや週刊誌がまた、せっせとコマ切れの刺激を送りつづけている
21. 40グラムそこそこで5万円もする化粧クリーム
22. 日本のサラリーマン (別名、社畜) は食事もそこに駅にかけつけ
23. 「学校に行かないと、たっぷり時間があって、やりたいことを思いきりやれた」
24. 皮肉たっぷりの投書が寄せられ、掲載した
25. ポケットがたくさんついたダブダブズボン
26. ルーズソックスにダブダブズボンで
27. ダボダボのズボンをはいて何が悪いんですか
28. ソックスやダボダボのズボン
29. 受験戦争もなく、子どもはのびのびと学び、遊ぶ
30. 老後はのんびりと年金生活
31. カネはいくらあれば豊かとかんじられるか、その基準がハッキリしない
32. なかには、理由がはっきりしない子もいることでしょう。
33. メンバーの出身国や母国語はばらばら
34. 結婚せずに夢を追いかけてばりばり働いている人もいれば
35. ヒソソリとしたビルの中
36. ふと、考えてみた。なぜ「出る杭は打たれる」という言葉が平気で使われたのか？
37. 前でぶらぶらしているベルト姿

38. 老人は相変わらずボケーッと海を見ている
39. ベンチにすわって、ボケーッと海を見ている老人
40. カネを追いまわすのはもうやめにして、ボケーッと過ごせる時間をつくり出す
41. その老人の横顔をボケーッと見つづけてしまった
42. 知人が「東京へ来ないか」と言ってくれた時、実はほっとした
43. 紅茶を飲みながら一日中、ぼーっと小説を読む
44. 不愉快を感じることがあるのは皆同じですが、その度にムカムカしては
45. しばらくすきなようにゆっくり暮らしていけばいい
46. 安らぎや静けさを感じることのできる、ゆったりとした空間

(5) 『窓ぎわのトットちゃん』

1. 背はあまり高くないけど、肩や腕が、がちりして
2. まあ、幸いなことは、ギザギザが三方向だけだった
3. 机に、ひどい黄色のギザギザが残ってしまっ
4. 旗竿を左はじに描きましたから、旗のギザギザは、三方だけだった
5. ヨレヨレの黒の三つ揃いを、キチンと着ていた
6. ママは、スカートのはしを、ぎっちり握ったまま
7. 電車の窓が、朝の光をうけて、キラキラと光っていた
8. 黄色のクレヨンで、ゴシゴシふさを描いたんですね
9. 一段落つくまで、ひとり教壇で、じーっと待ってるしかない
10. 外から帰って来たとき、どの洋服もビリビリで、ときにはジャキジャキのときもあつたし
11. 洩が出てきたときは、いつもでも、ズルズルやると
12. ハサミを口の中に入れて、チョキチョキやると
13. つまり、たっぷり四時間、先生は、トットちゃんの話聞いてくれた
14. トットちゃんをチラリと見て、いった。
15. ごみ箱のフタと同じなんだけど、もっとツルツルで、いろんなものが、しまえて
16. 一時間目に、机のパタパタを、かなりやると
17. パタン！とフタを閉めてしまいます
18. カールしたまつ毛をパチパチさせ
19. 先生のまつ毛が、そのときを思い出したように、パチパチと早くなった
20. もし読めたら、ビックリしたに違いない
21. ママや、前の学校の先生が聞いたら、きっと、びっくりするに違いない
22. 外から帰って来たとき、どの洋服もビリビリで
23. ママの手製の、しゃれたのは、どれもビリビリで
24. 白い木綿でゴム入りのパンツまで、ビリビリになっている
25. ヨレヨレの黒の三つ揃いを、キチンと着ていた
26. トットちゃんは、「わーい」と歓声をあげると

(6) 『ネパールのビール』

1. ついっっかり日本の感覚で、ネパールの子どもにとっては信じられない大金を渡してしまった
2. そう思って、がっかりした
3. AさんからGくんまでの中に筆者はこっそりもぐりこんでいる
4. 一昔前までは、アメリカに面白いようにドイツの車を輸出(?)できたが、今はさっぱりよ
5. しかしいっそ、きれいさっぱり、一度滅びたほうがいいですよ
6. 手紙の中にこめられていた相手の感情も、さらさらと流れて無くなる
7. 長い間練習をしていなかったハンディというものがまるで嘘のようにスイスイ泳ぐことができた
8. 贈り物は贈り物の衣を脱ぎ、すっかり私の物になる
9. 宅地で商いのために道路を使用するのは御法度なのにずらり
10. 年とともにおやしそっくりになっていった
11. 使わないことはわかっているもたっぷり金が入っていないと安心できない
12. 犬をめぐって、人間の驕りをチクリとやりこめた青年
13. 当時はちゃんとした状態で残っているプールなんかなく
14. 泳ぐことがどんどんおもしろくなり
15. すごいですネ、と彼は溜息をつきながら、ニヤリと笑う
16. そのニヤリに引掛かる
17. そのオオカミから出た動物が、なぜそんなにバラバラになったかと聞かれ
18. 「あなたは昼間いつもぶらぶらしているようだけど
19. 親の影響は少し時がたってからぼっくり出現する
20. 余分なチップを払うことで、何だかホッとした
21. 「あなたは方舟に入れるつもりでいるのね?」と私はムカッときた
22. そういっとはじめて彼は言葉を失い、口をモゴモゴさせて困った顔になった
23. 泥まみれでヨレヨレの格好であった